

在宅介護実態調査の集計結果報告

1 調査の概要

本調査は、高齢者が住み慣れた地域で生活できることを目指し、必要な支援体制を検討することを目的としています。具体的には、「在宅生活の継続」と「介護者の不安軽減」に加え、「仕事と介護の両立（離職防止）」を支援するための介護サービスのあり方を検討するための基礎調査となります。

2 調査方法

- (1) 対象者 在宅の要支援・要介護認定者（更新申請・区分変更申請者）
- (2) 方法 認定調査時に、次の2点の調査票を配付し、郵送により回収。
 - A票：要介護者本人の生活実態・サービス利用状況の把握
 - B票：介護者（家族等）の介護状況・就労状況・負担感の把握

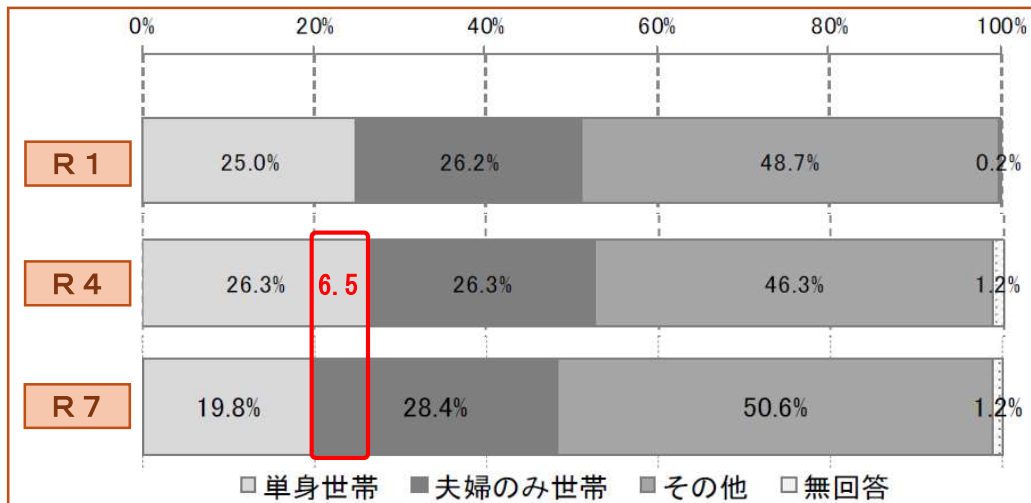
3 集計結果

回答数419件（令和8年8月12日時点）

4 質問項目ごとの比較分析

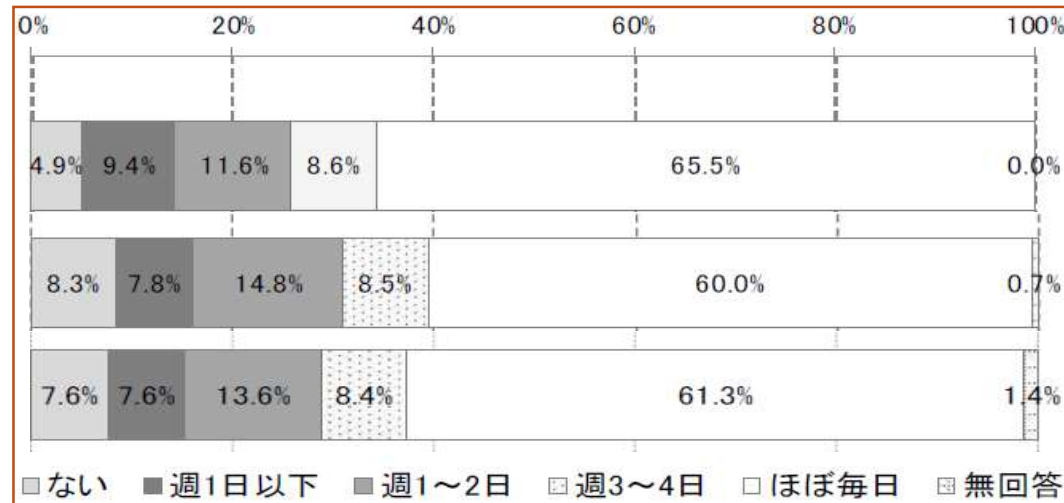
(A票問1) 世帯類型

- R4と比べて、単身世帯の割合が6.5ポイント減少している。



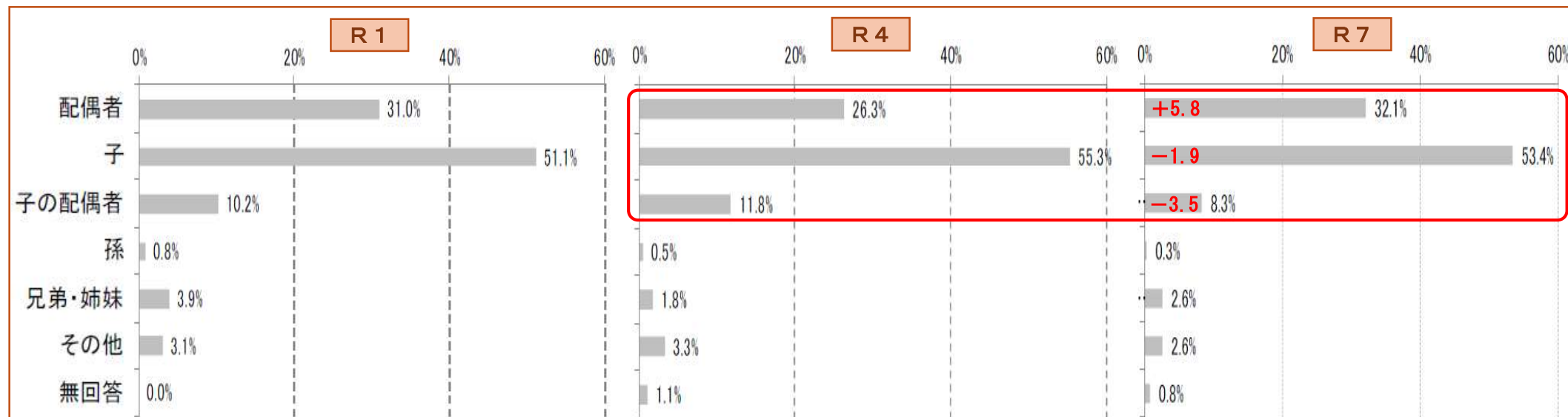
(A票問2) 家族等による介護の頻度

- 家族によるほぼ毎日の介護が約6割を占めるという構造に大きな変化は見られない。

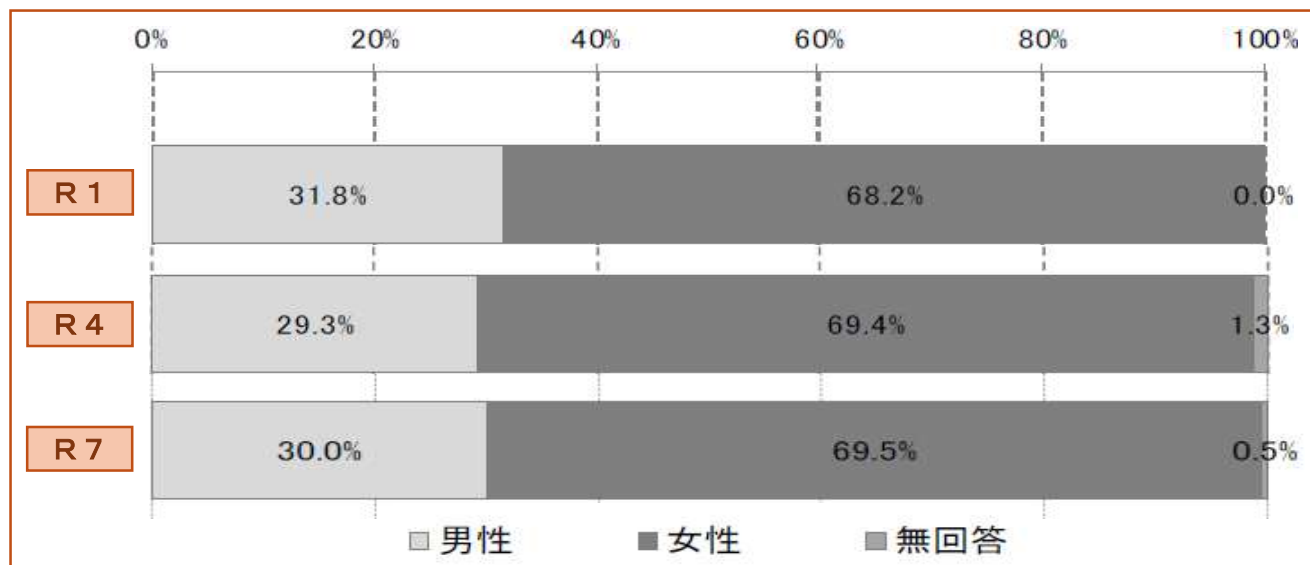


(A票問3) 主な介護者の本人との関係

- R4と比べて、配偶者による介護が5.8ポイント増加し、子・子の配偶者による介護が減少している。



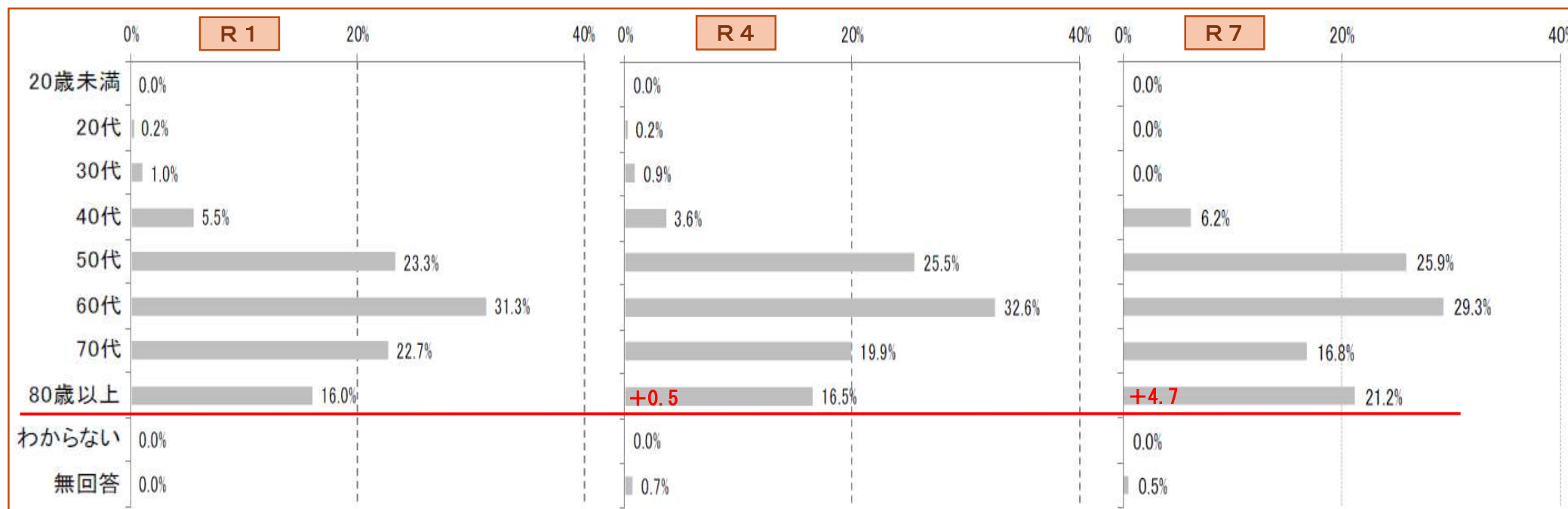
(A票問4) 主な介護者の性別



- 女性による介護が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。

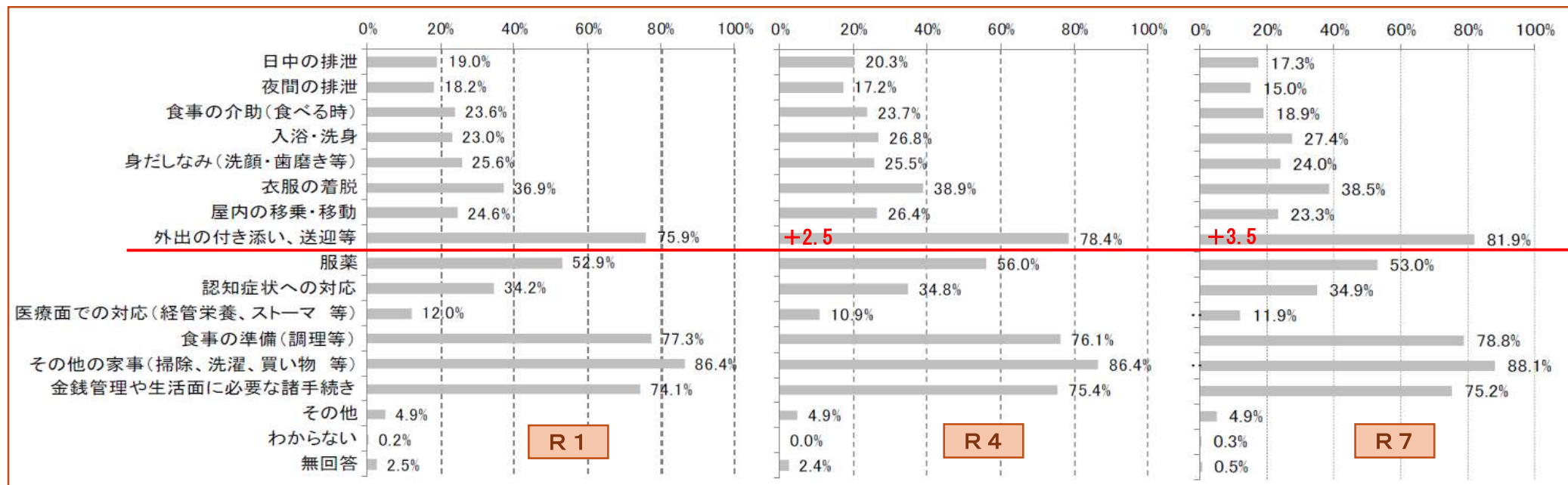
(A票問5) 主な介護者の年齢

- 80歳以上の介護者が増加傾向にあり、R4と比べて、4.7ポイント増加している。



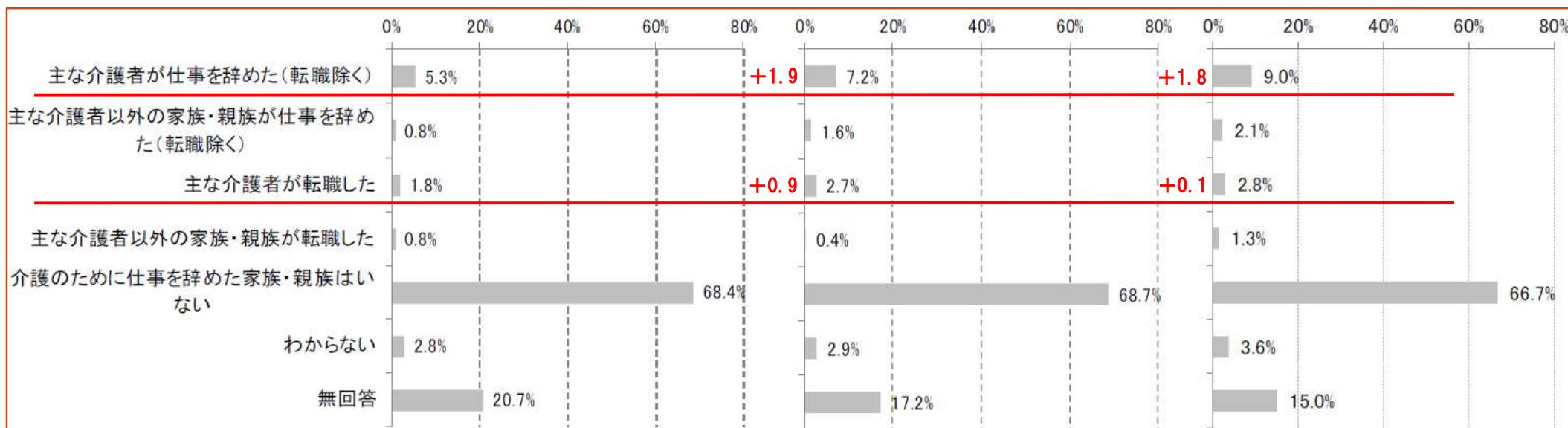
(A票問6) 主な介護者が行っている介護

- 外出の付き添い・送迎が増加傾向にあり、R4と比べて、3.5ポイント増加している。



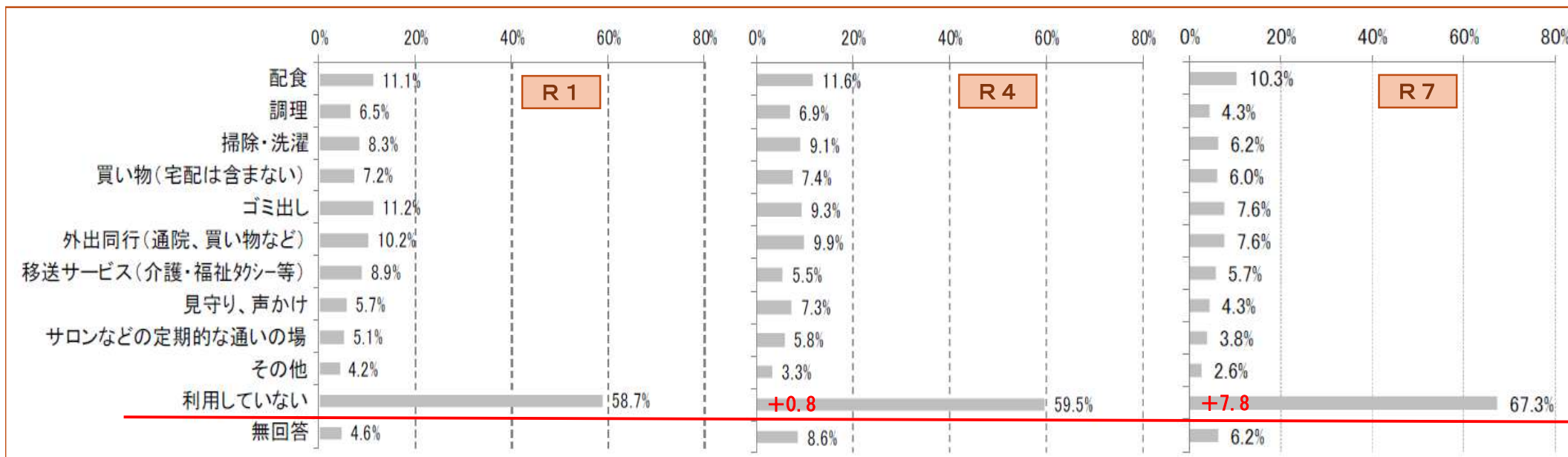
(A票問7) 介護のための離職の有無

- 主な介護者の離職・転職が増加傾向にあり、R4と比べて、合わせて1.9ポイント増加している。



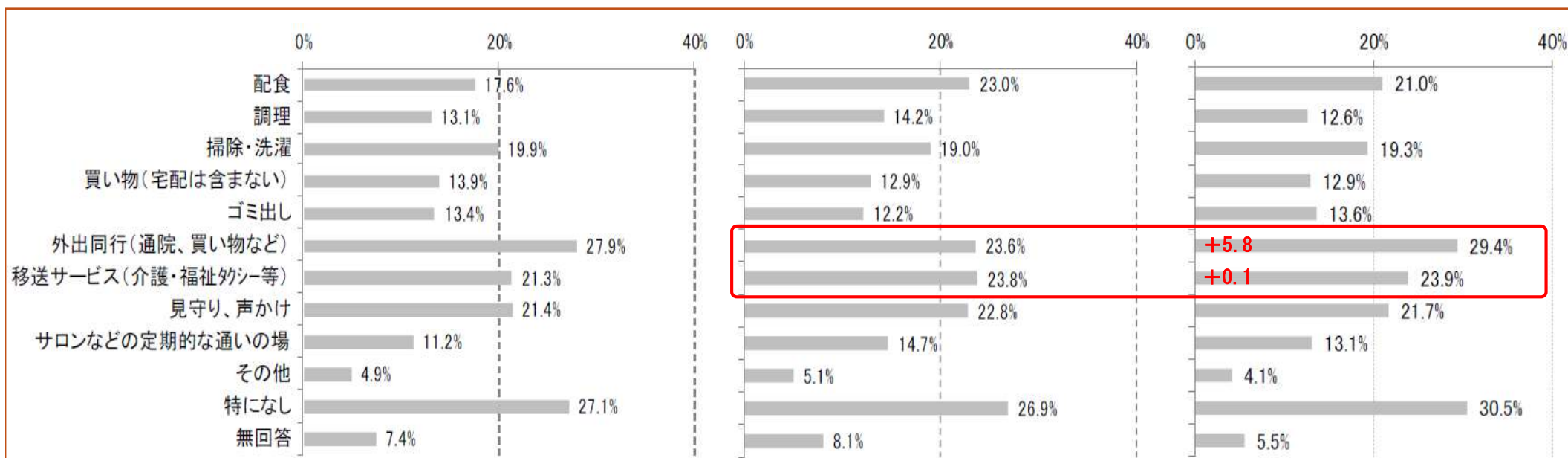
(A票問8) 保険外の支援・サービスの利用状況

- 保険外サービスを利用していない世帯が増加傾向にあり、R4と比べて、7.8ポイント増加している。



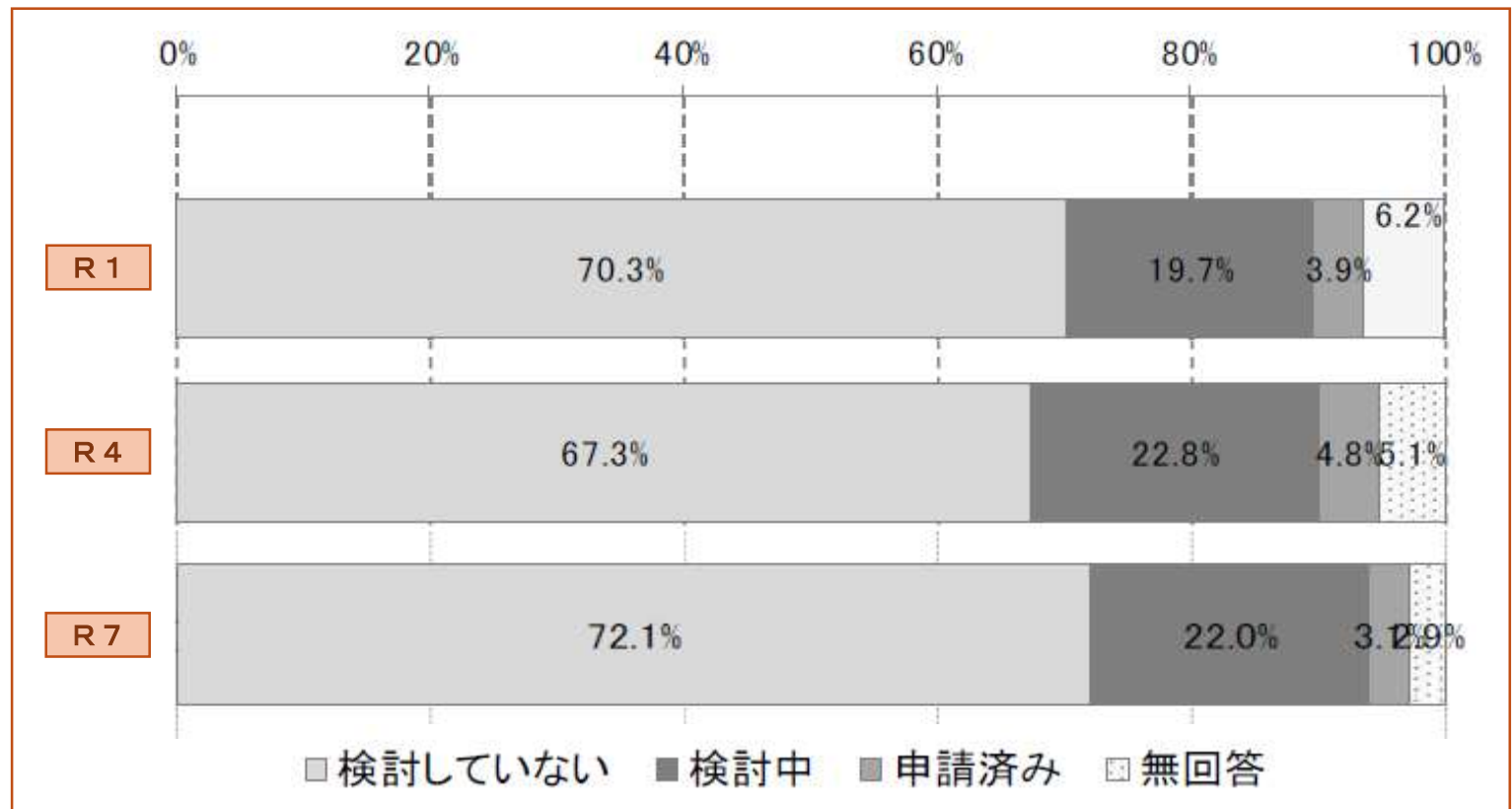
(A票問9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

- 外出同行・移送といった移動に関するニーズが高く、R4と比べて、合わせて5.9ポイント増加している。



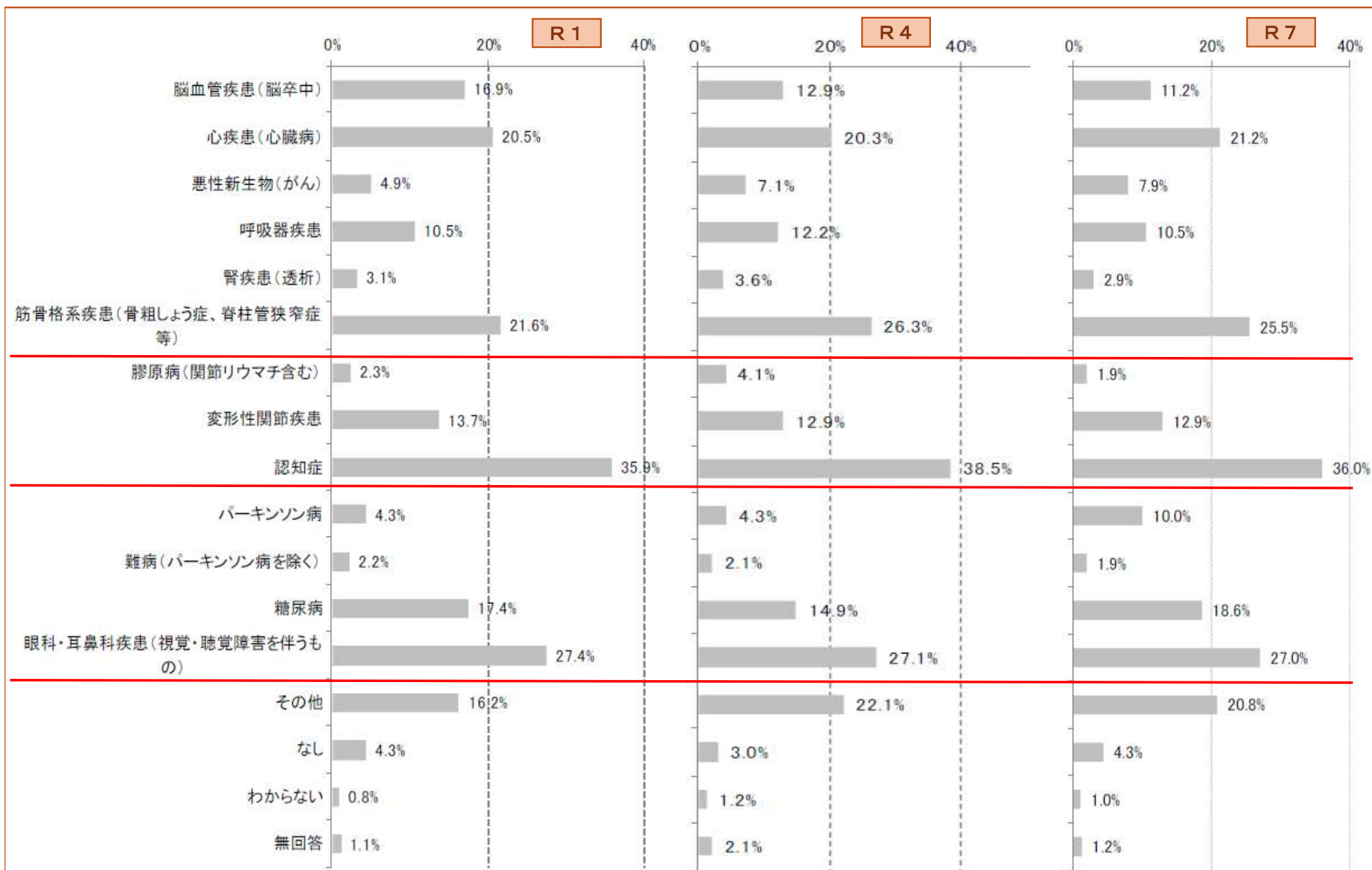
(A票問10) 施設等検討の状況

● 施設入所を検討していない世帯が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



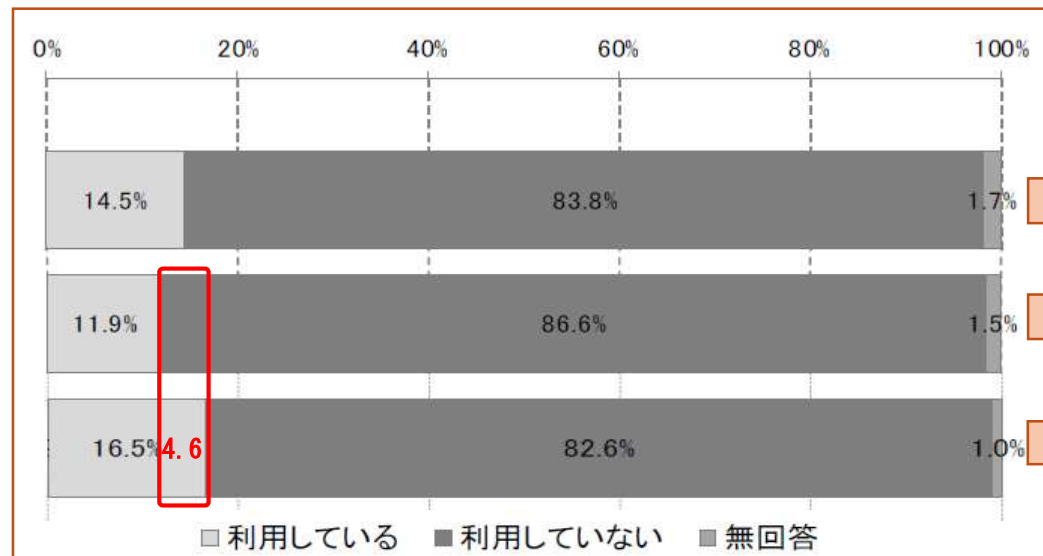
(A票問11) 本人が抱えている傷病

● 全体的な傾向に大きな変化は見られず、上位3位の疾患が変わらない。



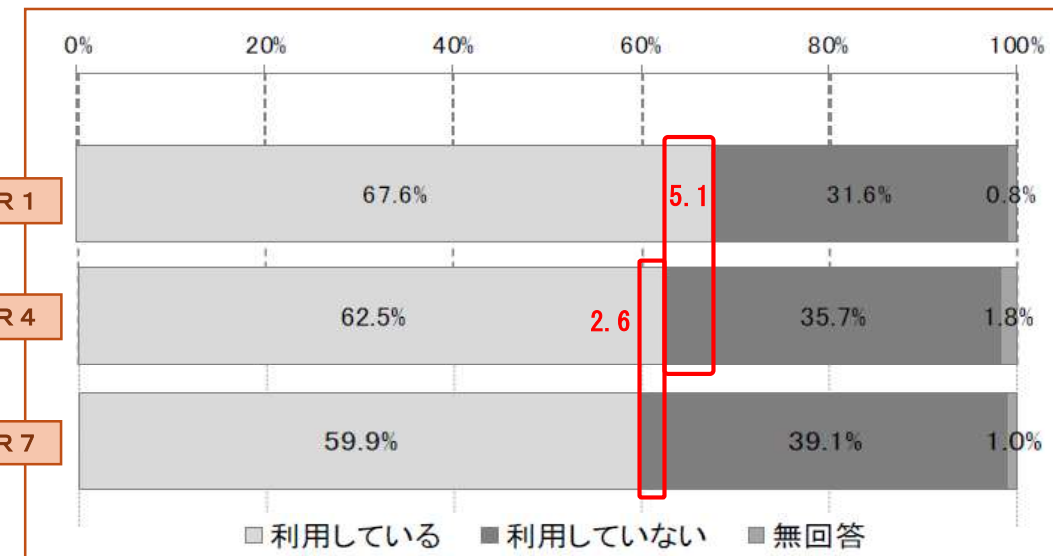
(A票問12) 訪問診療の利用の有無

- R4と比べて、利用割合が4.6ポイント増加している。



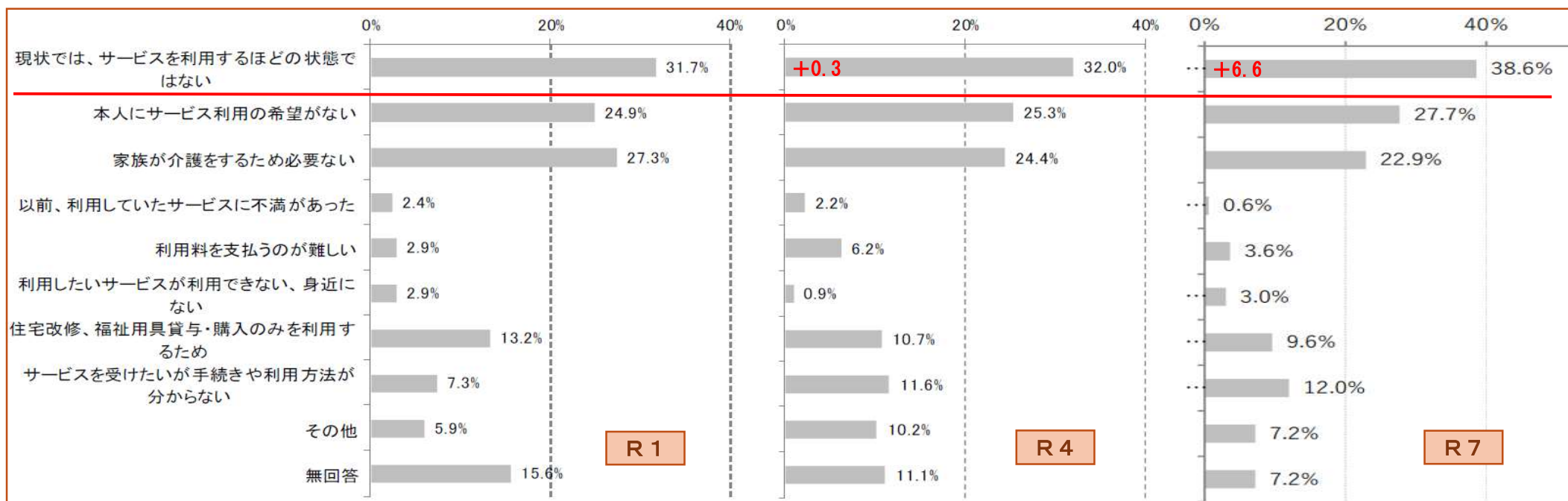
(A票問13) 介護保険サービスの利用の有無

- 利用割合が減少傾向にある。

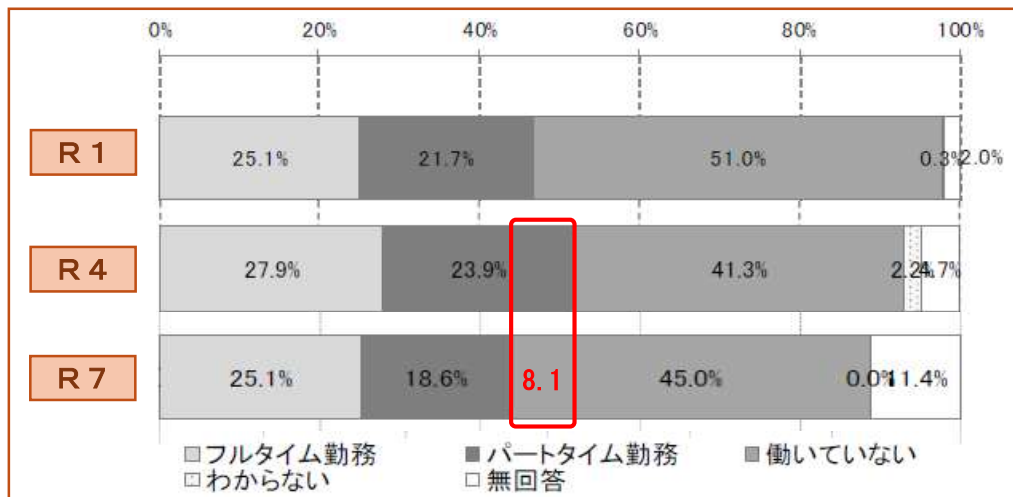


(A票問14) 介護保険サービス未利用の理由

- R4と比べて、サービスを利用するほどの状態ではないと判断する世帯の割合が6.6ポイント増加している。



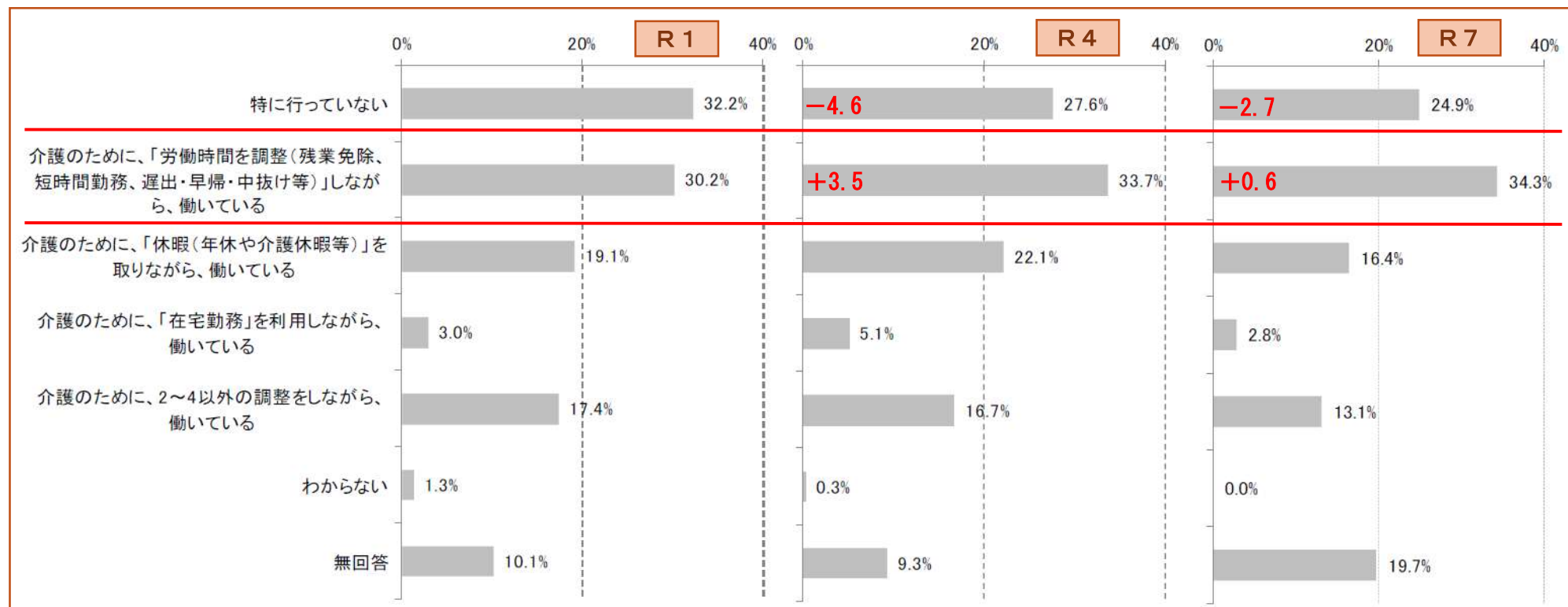
(B票問1) 主な介護者の勤務形態



- R4と比べて、働いている介護者の割合が減少しており、フルタイム・パートタイム合わせて8.1ポイント減少している。

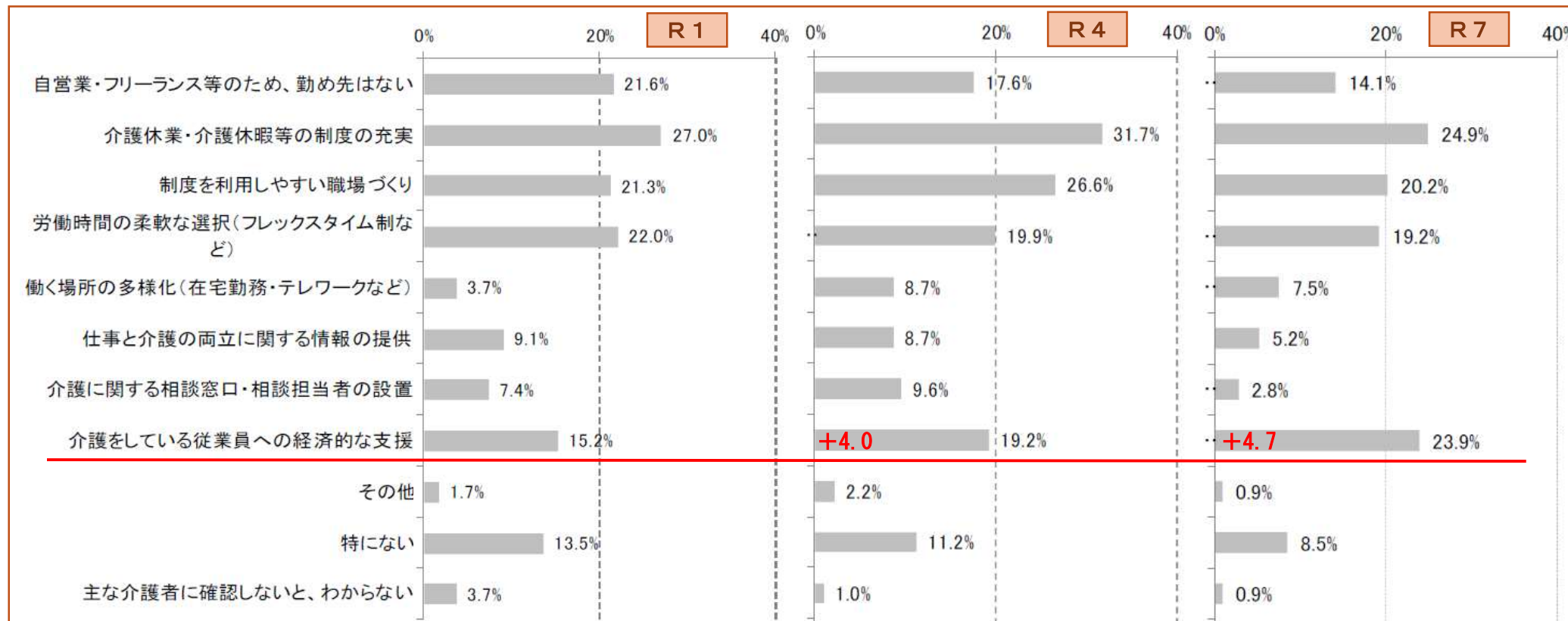
(B票問2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

- 調整をしていない介護者が減少傾向にある一方、労働時間の調整を行っている介護者が増加傾向にある。

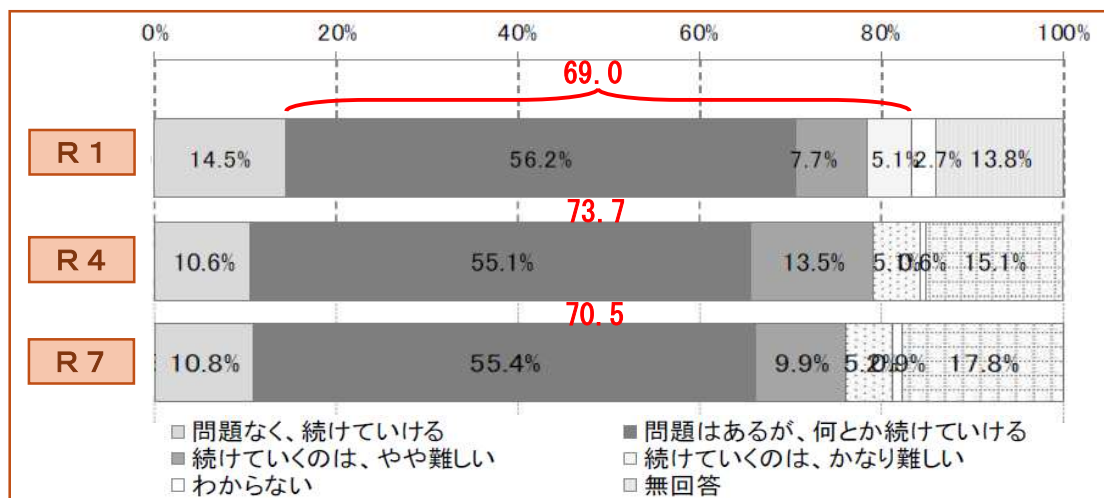


(B票問3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

- 経済的支援の割合が増加傾向にあり、R4と比べて、4.7ポイント増加している。



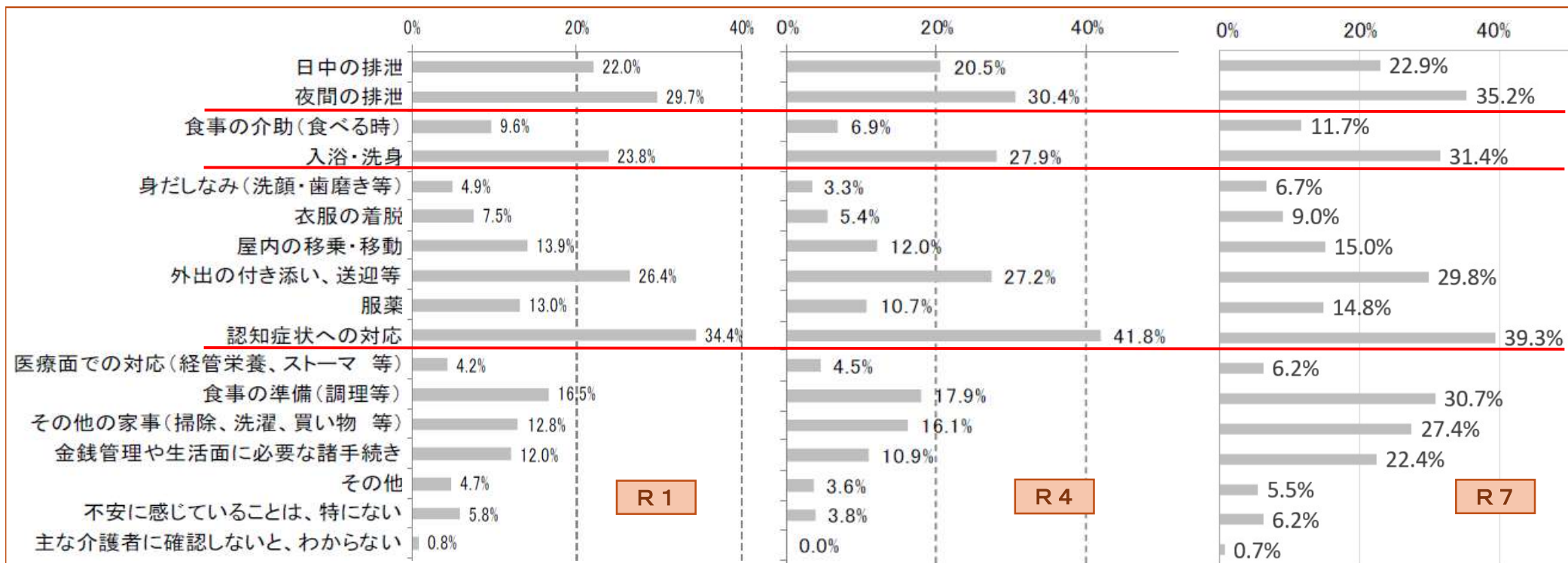
(B票問4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識



- 仕事・介護の両立に問題があると感じる介護者が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。

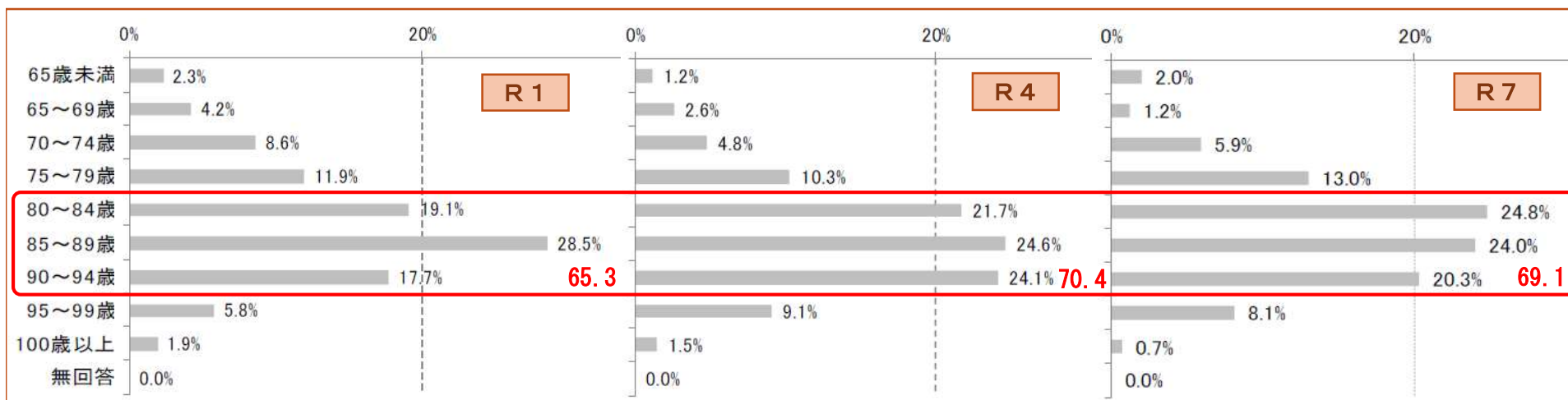
(B票問5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

- 認知症対応・夜間排泄・入浴のニーズが高く、R4と比べて、上位3位が変わっていない。



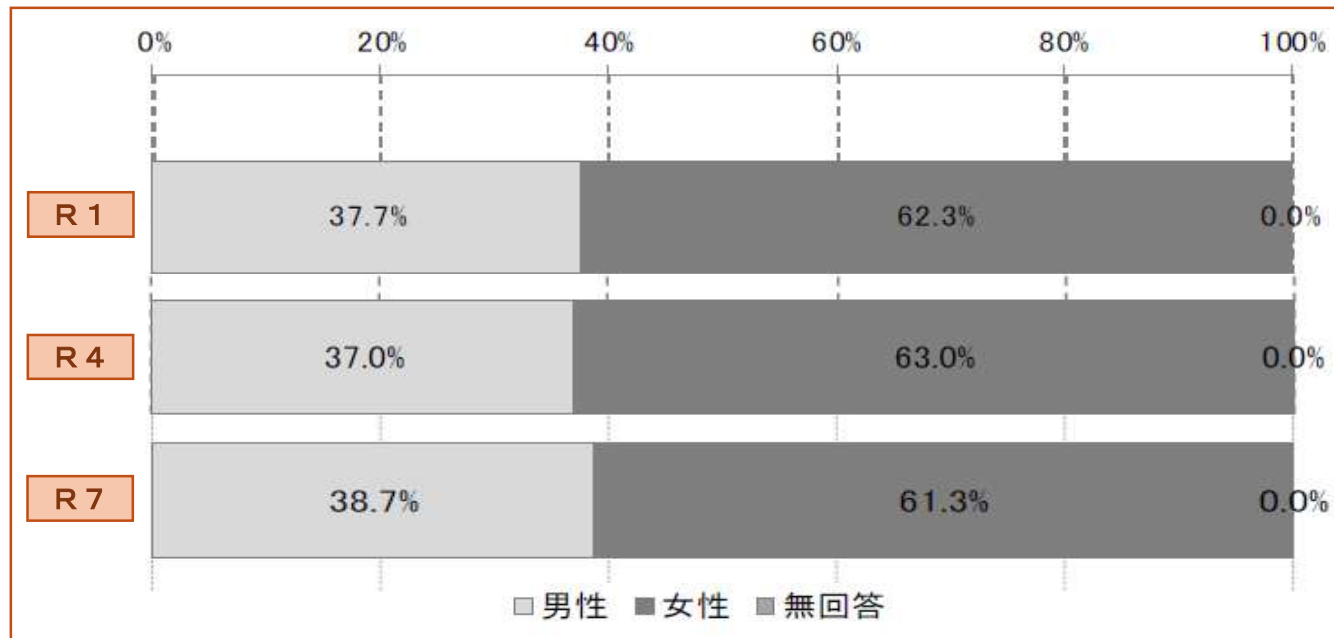
(要介護認定データ) 年齢

- 80～94歳が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



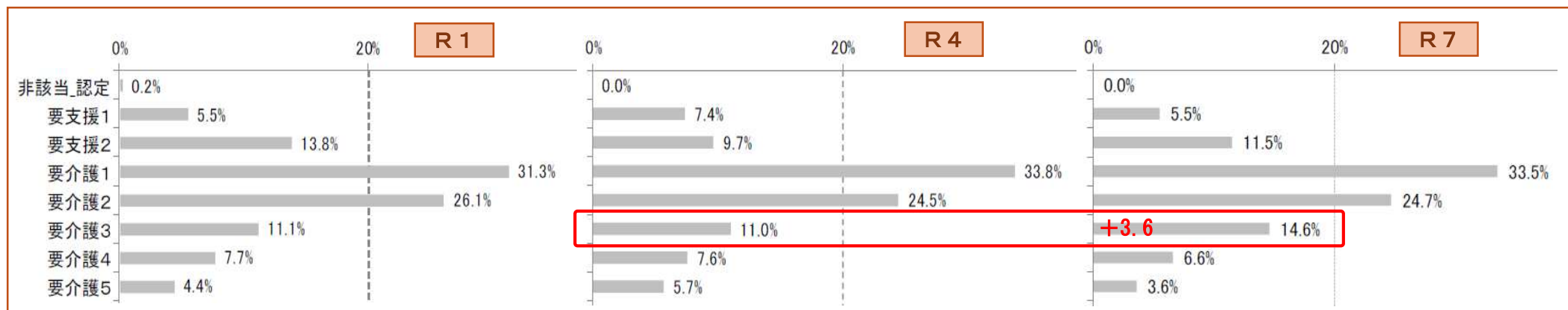
（要介護認定データ）性別

- 女性が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



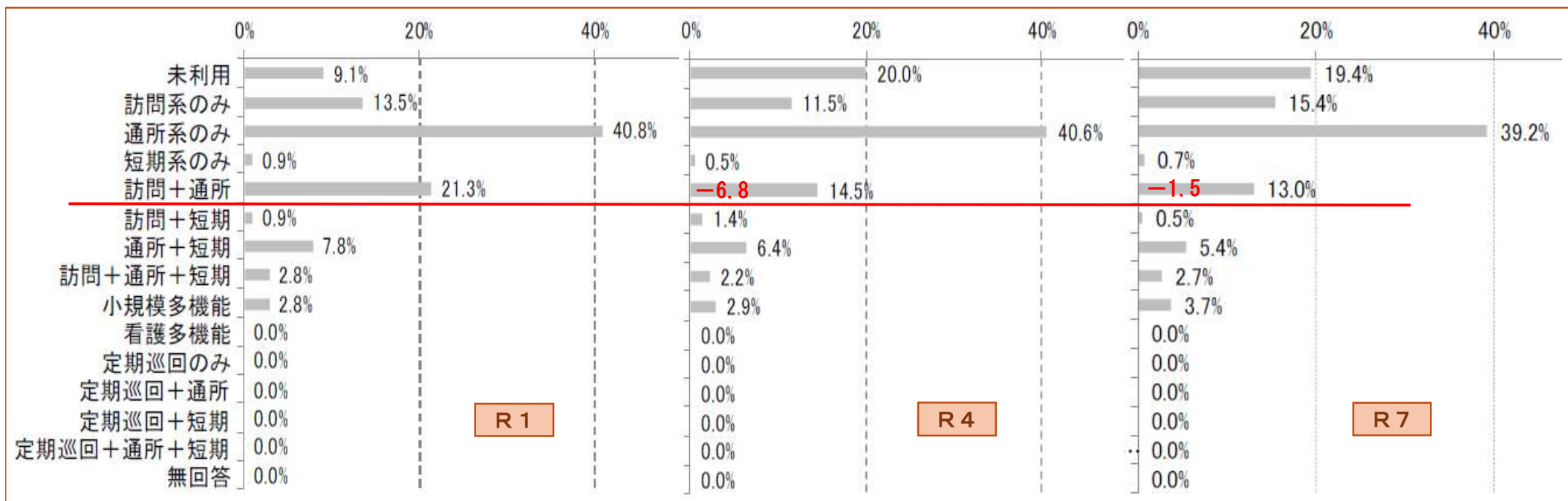
（要介護認定データ）二次判定結果（要介護度）

- R4と比べて、要介護3の割合が3.6ポイント増加している。



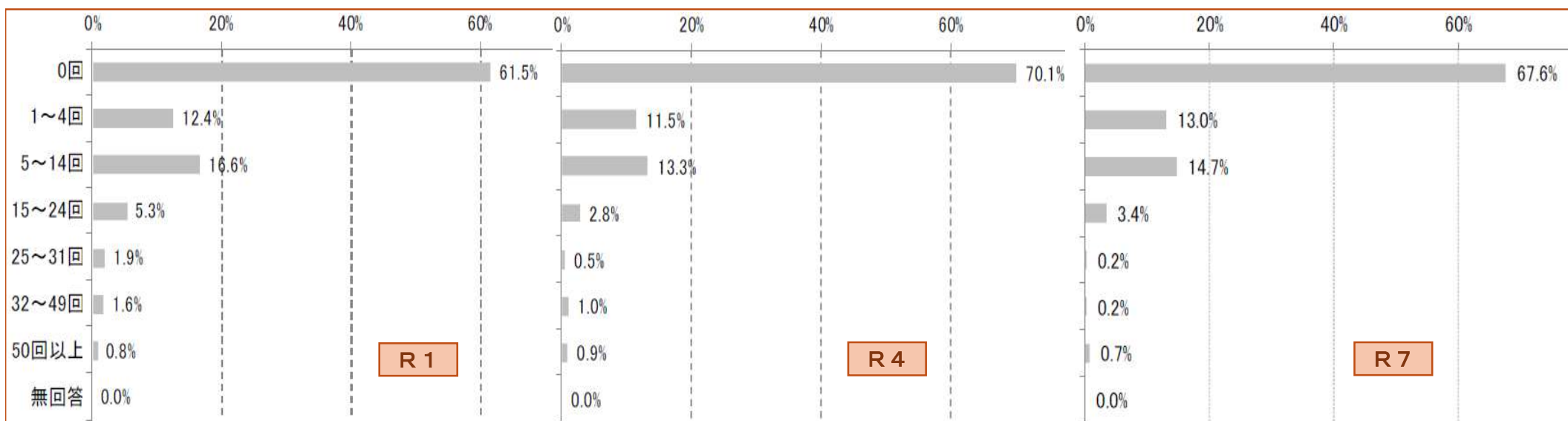
(要介護認定データ) サービス利用の組み合わせ

- 訪問＋通所の割合が減少傾向にあり、R4と比べて、1.5ポイント減少している。



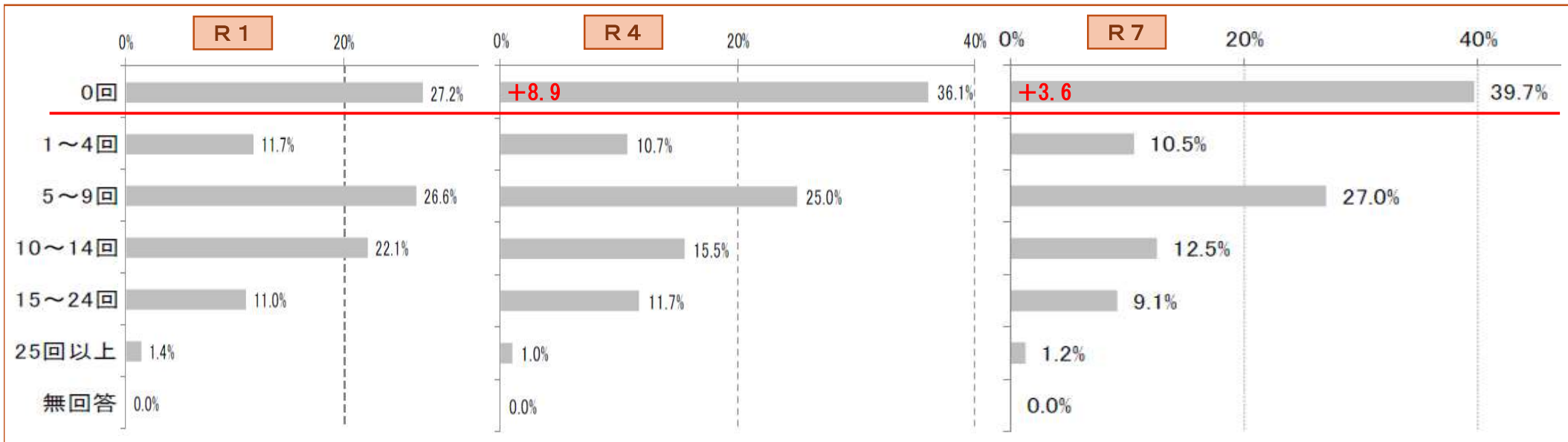
(要介護認定データ) 訪問系サービスの合計利用回数

- 未利用が約6、7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



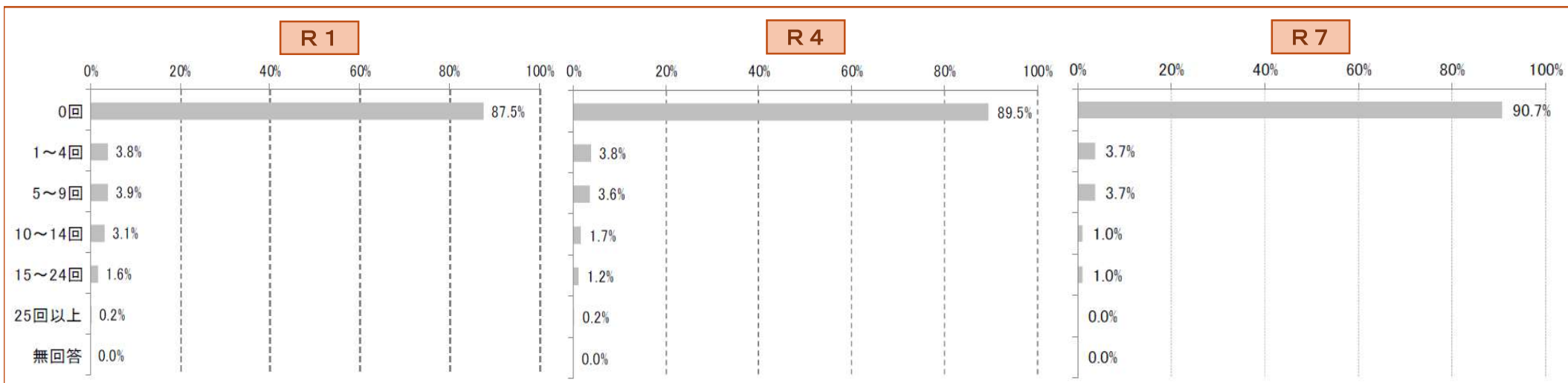
（要介護認定データ）通所系サービスの合計利用回数

- 未利用の割合が増加傾向にあり、R4と比べて、3.6ポイント増加している。



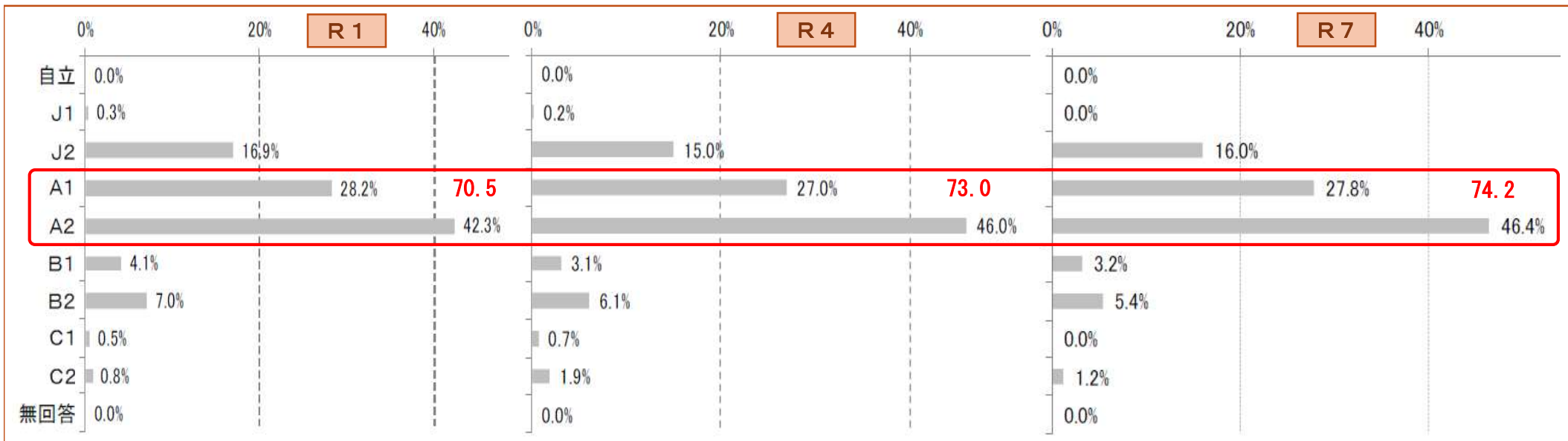
（要介護認定データ）短期系サービスの合計利用回数

- 未利用が約9割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



（要介護認定データ）障害高齢者の日常生活自立度

- ランクA（準寝たきり）の割合が約7割を占めるという構造に大きな変化は見られない。



（要介護認定データ）認知症高齢者の日常生活自立度

- 自立の割合が減少傾向にあり、R4と比べて、5.1ポイント減少している。

